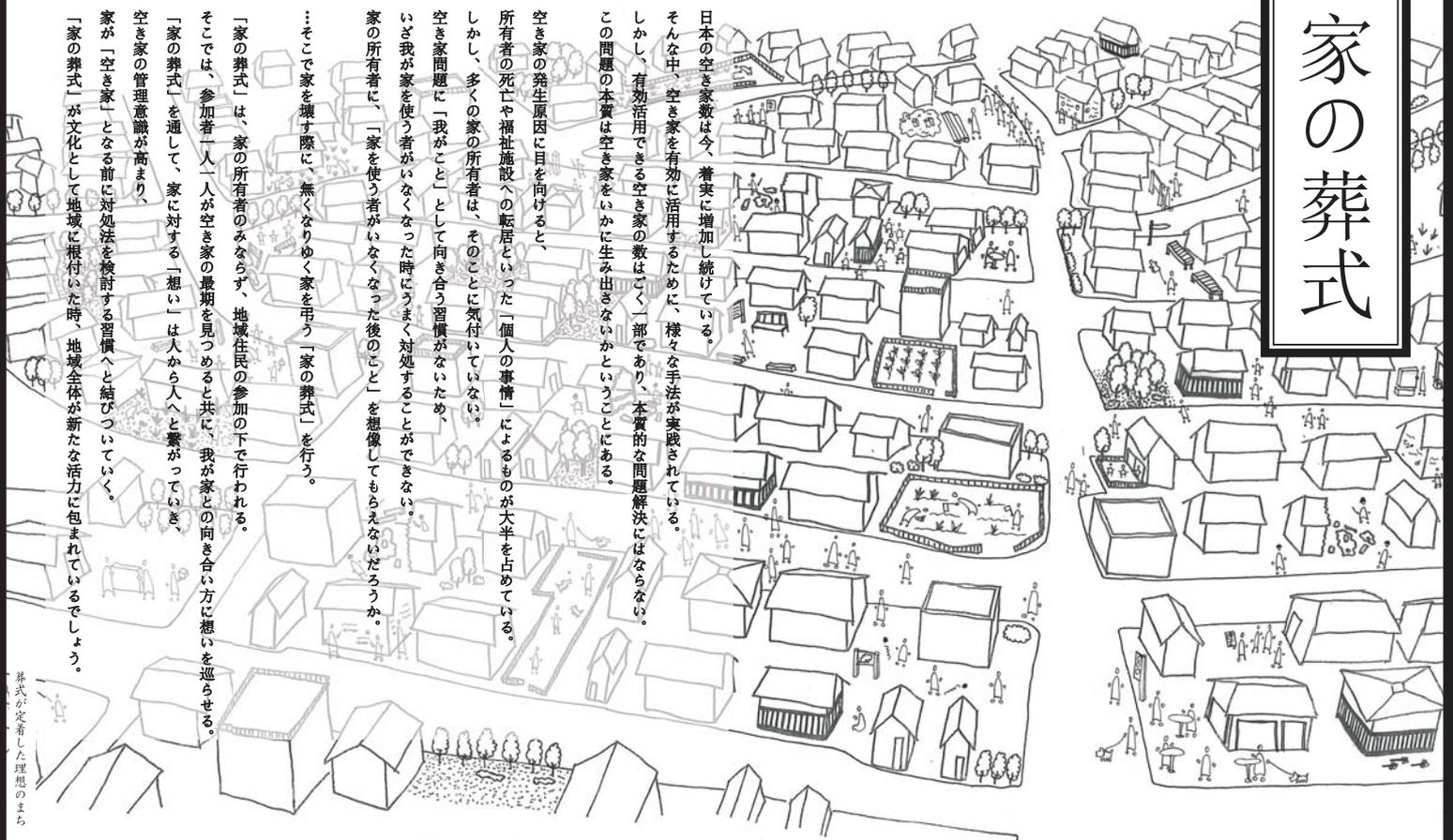


家の葬式



日本の空き家数は今、着実に増加し続けている。
 そんな中、空き家を有効に活用するために、様々な手法が実践されている。
 しかし、有効活用できる空き家の数はごく一部であり、本質的な問題解決にはならない。
 この問題の本質は空き家をいかに生み出さないかということにある。

空き家の発生原因に目を向けると、所有者の死亡や福祉施設への転居といった「個人の事情」によるものが大半を占めている。
 しかし、多くの家の所有者は、そのことに気付いていない。
 空き家問題に「我がごと」として向き合う習慣がないため、
 いざ我が家を使う者がいなくなった時にうまく対処することができない。
 家の所有者に、「家を使う者がいなくなった後のこと」を想像してもらえないだろうか。

そこで家を壊す際に、無くなりゆく家を弔う「家の葬式」を行う。

「家の葬式」は、家の所有者のみならず、地域住民の参加の下で行われる。

そこでは、参加者一人一人が空き家の最期を見つめると共に、我が家との向き合い方に想いを巡らせる。

「家の葬式」を通して、家に対する「想い」は人から人へと繋がっていき、

空き家の管理意識が高まり、

家が「空き家」となる前に対処法を検討する習慣へと結びついていく。

「家の葬式」が文化として地域に根付いた時、地域全体が新たな活力に包まれているでしょう。

葬式が定着した理想のまち

七、告別式
 家主らが式の参加者へ、家に対する感謝や竣工から空き家になるまでの家の歴史などを伝える。



八、葬送
 式の参加者は家と最期の別れを告げる。そして、家は解体される。



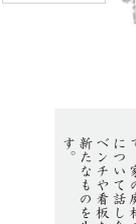
五、空き家
 時は経ち、家は「空き家」となる。家主は、家に対する感謝と敬畏のため、葬式を企画する。



一、地鎮祭
 土地の神様を鎮め、工事の安全と土地の盤石を祈る。



二、上棟式
 建物の骨組みが完成し、棟梁や大工への感謝の意を表す。



三、竣工
 皆の希望が詰まったマイホーム。



四、居住
 家族皆で暮した在一起し日の思い出。子どもの成長、母の最期など、家は家族の一生を見守ってきた。



十、粉骨
 式に参加した人同士で家の廃材の活用について話し合い、ベンチや看板など、新たなものを生み出す。



十一、散骨
 粉骨を通じて完成したものが地域へと運っていくことで、家は「わたし」のものから「わたしたち」のものへ昇華する。

